

I 自然公園等利用者数の概要

1 自然公園利用者数の推移

図I-1・表I-1は、昭和25年から平成30年までの国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園の利用者数を示したものである。

自然公園全体の利用者数をみると、昭和50年から昭和58年は、おおむね横這いの状況であった。昭和59年から徐々に増加の傾向を示し、平成3年には10億人を超えた。その後は減少傾向にある。平成30年の利用者総数は、前年に比べ0.4%減の9億514万人であった。

年間利用者数を各公園の種類別にみると、34の国立公園利用者数が3億7,151万人(対前年比1.1%増)、56の国定公園利用者数が2億8,811万人(同1.4%減)、311の都道府県立自然公園利用者数が2億4,552万人(同1.5%減)となっている。

2 利用者数の多い国立公園

表I-2は、全国34の国立公園のうち、利用者数の多い10公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かったのは富士箱根伊豆の1億3,583万人で、国立公園利用者数全体の36.6%を占めており、以下、瀬戸内海4,293万人、上信越高原2,185万人の順となっている。

これらのうち上位10公園についてみると、その合計利用者数は2億9,833万人となり、国立公園利用者数全体の80.3%を占めている。

なお、上位の国立公園は、都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

3 利用者数の多い国定公園

表I-3は、全国56の国定公園のうち、利用者数の多い10公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった国定公園は、琵琶湖の3,631万人で、国定公園利用者数全体の12.6%を占め、以下、玄海2,877万人、八ヶ岳中信高原1,812万人の順となっている。

これらのうち上位10公園についてみると、その合計利用者数は1億6,674万人となり、国定公園利用者数全体の57.9%を占めている。

なお、上位の国定公園は、国立公園と同様に都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

4 国立公園、国定公園利用者数の増減

(1) 利用者数が増加した国立公園

34の国立公園中15公園で前年と比較して利用者数の増加がみられた。増加率が高かった上位3公園は、順にやんばる(対前年比12.7%増)、阿蘇くじゅう(同12.4%増)、奄美群島(同10.9%増)となっている。

〔表 I - 4 - (1) 参照〕

(2) 利用者数が減少した国立公園

利用者数が前年と比較して減少した国立公園は 19 公園で、減少率が高かった 3 公園は、順に白山（同 21.9% 減）、足摺宇和海（同 10.4% 減）、利尻礼文サロベツ（同 8.7% 減）となっている。

〔表 I - 4 - (2) 参照〕

(3) 利用者数が増加した国定公園

56 の国定公園中 17 公園で前年と比較して利用者数の増加がみられた。増加率が高かった上位 3 公園は、順に日南海岸（同 17.5% 増）、壱岐対馬（同 11.7% 増）、祖母傾（同 7.6% 増）、となっている。

〔表 I - 4 - (3) 参照〕

(4) 利用者数が減少した国定公園

利用者数が前年と比較して減少した国定公園は 39 公園で、減少率が高かった 3 公園は、順に大沼（同 32.5% 減）、暑寒別天売焼尻（同 24.1% 減）、甕島（同 19.2% 減）となっている。

〔表 I - 4 - (4) 参照〕

5 利用者数の多い都道府県立自然公園

表 I - 5 は、全国 311 の都道府県立自然公園のうち、利用者数の多い上位 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった公園は日本平・三保の松原（静岡県）の 1,350 万人であり、以下、大宰府（福岡県）の 1,300 万人、水郷（三重県）の 1,102 万人となっている。

II 自然公園利用者数調

この調査は、暦年毎の自然公園の利用者数を把握するため、都道府県からの報告に基づいて集計したものである。〔表 II - 1 ~ 8 参照〕

なお、国立公園内におけるビジターセンター等施設の入館者数は、主に環境省地方環境事務所からの報告によりとりまとめたものである。〔表 II - 9 参照〕

III 長距離自然歩道利用者数調

長距離自然歩道は、優れた自然環境を有する自然公園や文化財などを結ぶ長距離にわたる歩道で、自然や歴史などを訪ねることにより、健全な心身を育成し、自然保護に対する理解を深めることを目的としたものである。

この調査は、自然公園と同じく都道府県からの報告に基づき、暦年毎の各長距離自然歩道の利用者数を集計したものである。

平成30年の長距離自然歩道利用者数は7,758万人であり、対前年比1.2%減となっている。各自然歩道別に利用者数をみると、北海道38万人（対前年比2.2%増）（※1）、東北960万人（対前年比1.1%増）、東北太平洋岸1万人（※2）、首都圏822万人（同2.7%増）、東海897万人（同4.7%減）、中部北陸1,180万人（同2.3%減）、近畿2,417万人（同1.0%減）、中国295万人（同6.4%減）、四国240万人（同8.2%減）、九州911万人（同1.4%増）となっている。

〔表Ⅲ－1～10参照〕

（※1）北海道自然歩道は平成30年現在整備中であり、利用者数は供用を開始している一部のもの。

（※2）東北太平洋岸自然歩道（みちのく潮風トレイル）は、現在整備中のため一部のもので、平成27年度から集計を開始。

IV 参考

1 新宿御苑入苑者数

この調査は、国民公園のうち新宿御苑について新宿御苑管理事務所の報告により、年度毎の入苑者数を取りまとめたものである。

平成30年度の入苑者数は約231万人（対前年比7.5%減）となっている。

〔表Ⅳ－1参照〕

2 休暇村利用者数

この調査は、（一財）休暇村協会の報告により、年度毎の利用者数を取りまとめたものである。

平成30年度の休暇村の利用者数は約383万人（前年比1.9%増）となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約135万人（同1.2%増）、その他の利用者数は約248万人（同2.2%増）であった。

〔表Ⅳ－2参照〕

3 国民宿舎利用者数

この調査は、（一社）国民宿舎協会（平成13年度分までは各都道府県）の報告により、年度毎の公営の国民宿舎の利用者数を取りまとめたものである。

平成30年度の国民宿舎の利用者数は約343万人（同9.5%減）となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約99万人（同10.7%減）、休憩利用者は約244万人（同9.0%減）であった。

〔表Ⅳ－3参照〕

4 全国温泉地宿泊利用者数

この調査は、各都道府県の報告に基づき、年度毎の温泉地の延べ宿泊利用者数を取りまとめたものである。

平成30年度における延べ宿泊利用者数は約1億3,058万人（同0.01%増）となっている。

[表IV-4 参照]

5 平成30年の気象概況

<天候の概要>

平成30年の天候の特徴

- ① 年平均気温は、全国的に高かった。特に東日本で記録的に高く、北・西日本と沖縄・奄美で高かった。
- ② 年降水量は、北日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本日本海側、沖縄・奄美が多かった。東日本太平洋側では平年並だった。
- ③ 年間日照時間は、顕著な多照となる時期があった東・西日本、沖縄・奄美ではかなり多かった。北日本では平年並だった。
- ④ 冬は全国的に低温となり、特に西日本では過去32年間で最も低くなった。日本海側では北陸地方を中心に大雪になり、交通障害が発生した。
- ⑤ 春から夏にかけては、東・西日本中心に1946年の統計開始以来の記録的な高温となった。
- ⑥ 7月上旬には、西日本中心に「平成30年7月豪雨」が発生し、数日にわたり記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生した。
- ⑦ 9月には台風第21号、第24号の接近・通過に伴い、各地で暴風、高潮となった。

冬（平成29年12月～平成30年2月）

- ① 気温は、全国的に低かった。
- ② 降水量は、東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側でも多かった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側および沖縄・奄美では少なかった。北・西日本太平洋側は平年並だった。
- ③ 降雪量は、西日本日本海側ではかなり多く、東日本日本海側でも平野部を中心に多かった。日本海側では北陸地方を中心に大雪となり、交通障害が発生した。北・東日本太平洋側でも低気圧の影響で大雪になった日があった。
- ④ 日照時間は、東日本太平洋側ではかなり多く、西日本太平洋側でも多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美は少なかった。北日本太平洋側と東・西日本日本海側では平年並だった。

春（平成30年3月～5月）

- ① 気温は、全国的にかなり高く、東日本では記録的な高温となった。
- ② 降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。
- ③ 日照時間は、東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側で多かった。北日本では平年並だった。

夏（平成30年6月～8月）

- ① 気温は、東・西日本で記録的な高温となり、北日本で高かった。沖縄・奄美で平年並だった。
- ② 降水量は、北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。東日本と西日本日本海側で平年並だった。
- ③ 日照時間は、東日本と西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。北日本太平洋側で平年並だった。

秋（平成30年9月～11月）

- ①気温は、北・東日本で高かった。西日本と沖縄・奄美では平年並だった。
- ②降水量は、東・西日本と沖縄・奄美が多かった。一方、北日本では少なかった。
- ③日照時間は、東日本と西日本日本海側で少なかった。一方、北日本と沖縄・奄美では多かった。西日本太平洋側は平年並だった。

(気象庁ホームページ 報道発表資料より抜粋)